

版 出 念 記 80 年 後 破

定本 夢野久作全集

全 8 卷

【編集】

西原和海・川崎賢子・沢田安史・谷口基

国書刊行会



【本全集の特色】

- 1..... 夢野久作の小説をはじめ、童話・随筆・短歌・評論・ルポルタージュ・伝記・初期作品・異稿などを網羅的に収録した、定本となりうる全集。
 - 2..... 最新の研究に基づき、別名義で発表された作品も収録。多彩多面な業績の全貌を展望できる。
 - 3..... いずれの単行本にも未収録だった、初収録となる新資料を50点以上含む。
 - 4..... 旧全集(ちくま文庫版)の約一・五倍の収録量。
 - 5..... 作品ジャンル別に分けただうえて、編年体の編集を採用。夢野久作の全活動の軌跡をたどれるように構成。底本には原則として、著者生前最後の掲載単行本・雑誌新聞を用いた。
 - 6..... 仮名遣いは原文の通り旧仮名遣いとした。
 - 7..... 最終巻(第8巻)には、年譜・書誌・索引を収録。また改訂おびただしい作品については、異稿も収録した。巻末には、編集委員による詳細な解題を収録。多角的視点による検証を加え、作品を読む際の手掛かりとなる情報を盛り込んだ。
 - 8..... また、著者生前に発表されなかったすべてのテキストを校合した上での詳しい校異を示した。
- 8..... 各巻には、多彩な執筆者による書き下ろしエッセイ二本を掲載した「月報」を付す。

【造本・体裁】A5判/上製バクラム装・箔押し2色/貼函入り
各巻平均630頁/本文12級2段組み/
月報8ページ/予価:本体9500円+税

【装画】夢野久作 【装幀】柳川貴代

【第1回配本】
第1巻 定価:本体9500円+税
2016年11月10日発売
第2回配本 第2巻 2017年4月発売
以降、巻数順に年3冊刊行予定
完結予定/2019年



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
電話:03-5970-7421 ファックス:03-5970-7427

帖合・書店印

国書刊行会

定本 夢野久作全集【全8巻】の定期購読を予約します。

申込書

お名前 _____

ご住所 _____

お電話 _____

*必要事項をご記入のうえ、書店へお渡しください。



刊 行 の 言 葉

初めて集成されるQのすべて

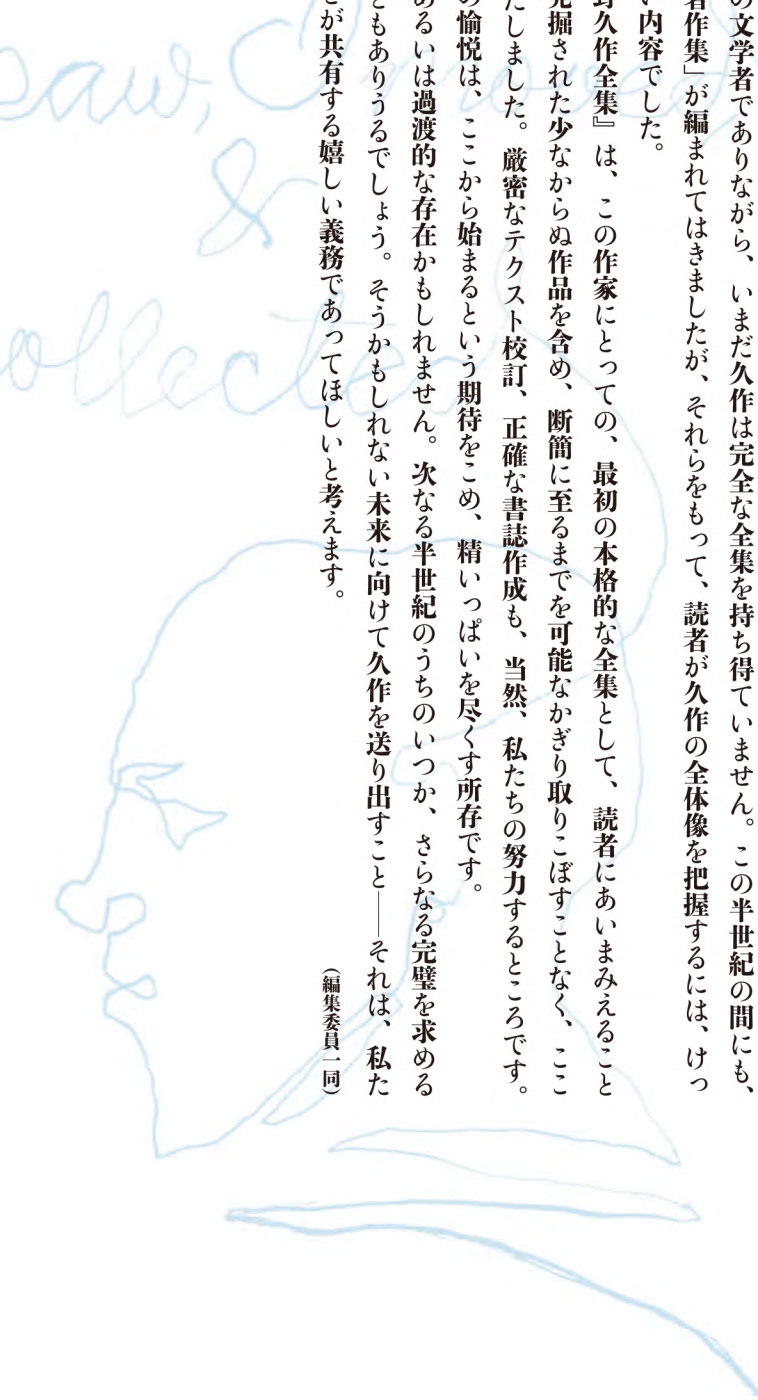
夢野久作（一八八九〜一九三六）の文学に対する再評価の気運が高まったのは、一九七〇年前後のことでした。それから、早くも半世紀が経とうとしています。当初、この作家は熱狂的な読者を生みだしましたが、その余熱は今も続き、今日、さらに読者層は厚く、広く、海を越えて世界に伸びていく勢いすら見せています。

しかし、それほどの文学者でありながら、いまだ久作は完全な全集を持ち得ていません。この半世紀の間にも、幾つかの「全集」や「著作集」が編まれてはきましたが、それらをもって、読者が久作の全体像を把握するには、決して充分とは言えない内容でした。

今回の『定本 夢野久作全集』は、この作家にとっての、最初の本格的な全集として、読者にあいまみえることになりまます。新たに発掘された少なからぬ作品を含め、断簡に至るまでを可能なかぎり取りこぼすことなく、ここに集成することになりました。厳密なテキスト校訂、正確な書誌作成も、当然、私たちの努力するところですが、久作を読むことの真の愉悦は、ここから始まるという期待をこめ、精いっぱい尽くす所存です。

この『全集』も、あるいは過渡的な存在かもしれませんが、次なる半世紀のうちのいつか、さらなる完璧を求める全集が企画されることもありうるでしょう。そうかもしれない未来に向けて久作を送り出すこと——それは、私たち、読者の皆さんとが共有する嬉しい義務であつてほしいと考えます。

（編集委員一同）





オシヤベリ地獄

四方田犬彦



『定本夢野久作全集』
推薦の言葉

東北に宮沢賢治がいて、透き通った冷気のなかで鉱物的想像力を育んでいたころ、西方には夢野久作がいて、狂気と饒舌、漂泊と逃走からなる、グロテスクな言語宇宙を創造していた。両大戦間の日本文学は、この二つの極に牽引されて成立している。

『ドグラ・マグラ』に未刊行の別原稿が存在していると聞いて、福岡の県立図書館を訪れたのはいつの日だったか。いまだ書かれずにいる『白髪小僧』の完結編を想像したのは、いつの日だったのか。夢野久作の描いた人物がもし地獄に墮ちているとすれば、それは無限に言語の回廊を彷徨い、途切れることなく語り続ける〈オシヤベリ地獄〉であるはずだ。この地獄にはホフマンも、ベケットも、そしてイルダ・イルストさえも住んでいる。

大震災のあとで際限もなく墮落を続ける東京人。ハルビンの魔窟を脱出し、ありえぬ氷の涯をめざすロシア人。大地の私語に恐怖する筑豊人。いくたびもの困難な試みののち、ここに夢野久作が顕現する。

利加。女の市場がアノ紐育ぢや。桑港の賭博よ。市俄古の酒よと。千鳥足
つくした十年が、りぢや。見たり聞いたりして来た中でも。タツタ一つの
いふのが。ナント恐ろし地獄の話ぢや。スカラカ、ボクく。チヤく
ア。さても恐ろし地獄の話ぢや。しかも私の凹んだ此の眼で、チヤン

イニシエーションとしての迷宮

幾原邦彦

夢野久作はアドウレセンスが求める作家だ。劇業だが、それらの迷宮を後に「人生に必要なイニシエーションだった」と反芻できたとするれば、生涯の教典となることは必然だ。





「狂Q病」時代のニッポン 諏訪哲史

旧九州帝大医学部地下冷凍庫に、一本の試験管が厳封されている。ソレは大戦前に筑豊地方から出て全国へ蔓延、猛威を振るい、帝都を死の舞踏の街にした致死性病原菌「狂Q病」ウイルスの凍結保存管であるらしい。

この伝染病は、罹患者に極度の躁と鬱、苦悶と愉悦とを交互にもたらす。病者たちは皆アツハツハ、オホ、アハ／＼と嘯い、女患者は自身の一人称を妾と記しはじめ、タツタ数日でハッキリと七転八倒した後スカラカチャカポコ踊り出す。

昭和初期に我が国を席卷したモダニズムという躁状態こそ、狂Q病の前段階だったと見る学者もあるが、この程、再びキナ臭くなってきたヤブレカブレのニッポンに、鉄鎚のごとく件の菌を撒布せんとするテロ声明文が発せられた。これまでで最も完璧な工程を経、培養を遂げたQの知られざる全貌・本領が明かされる。

読者よ、Qに狂え。Qを畏れよ。Qこそは文学を狂わせ、踊らせる神の名である。史上最大級の「狂人解放治療」がいま、始まる。

そこらの地獄の話ぢや。さても斯様な地獄の起りが。曰く因縁イロハのイ
るならば。文明開化のお蔭と御座る。そこで世界の文明開化の。日進月歩
と申せば。科学知識の尊といふ易物の。中に尊といふ醫者の仕事ぢや。人の病
チヤカポコく……。ウルトラ「ユメQ」を夢見て

東雅夫



夢野久作は、一気に読んだ。中学一年の夏休み。街の本屋の棚の最上段に漆黒の妖気を放っていた三一書房版『夢野久作全集』を自由研究の一環と称して一括購入してもらい、来る日も来る日も読み耽った。わが地獄の季節よ。どこまで理解できたか怪しいものだが、アハアハアハハハハハとか、……………ブウウ——ンンンとか、呪文めいたオノマトペが不意に炸裂する破天荒な文体と、無垢なるものへの憧憬をひそめた奇譚幻談猟奇歌の数々は、真夏の中学生の生理と確かにどこかで響き交わしていたのだろう。

思えば、名高い「キチガイ地獄外道祭文」から「とうたたりたらりらア」の謡曲「翁」の詞章に至るまで、芸能者の語りの妖しさを最初に教えてくれたのも、夢野作品ではなかったか。泉鏡花と夢野久作という近代日本幻想文学の両極が、共に能楽の伝統を自らの文学の重要な源泉としていたことは、もつと注目されてよい。

ことほどさように、あるいは青春の文学として、あるいは芸能者の裔の文学として、夢野久作には、いまだ十全に究められたとは云いがたい様々な相貌がある。ついに実現することとなった今回の完全版全集刊行を機に、幻魔怪奇の探偵作家という旧来のイメージを超えた、新たなるユメQ像が確立されることを願ってやまない。





夢野久作讃



江戸川乱歩

作家としての興味の範囲が非常に広く、それでゐる強い特異性をもつてゐたこと、探偵小説界に夢野君に及ぶものはなかった。彼はあらゆる人生の断面に興味を持った中にも、人間の異常心理に限りなき恐れと、同時に憧れを抱く詩人であつて、「死」と「狂気」と「犯罪」の激情を通して、人生を見、人生を語らうとした。彼の夥しい遺作は、異常浪漫派の妖しく美しく百花咲き乱れた花園である。

(黒白書房版全集推薦文「諸家推薦之辭」)

澁澤龍彦

文学史的にながめれば、夢野久作は、泉鏡花以来はじめて近代日本文学史上に現れた、真の幻想家的資質をそなえた作家であり、骨の髄までの浪漫的魂の持主であつた。浪漫的魂と切つても切れない関係にあるのが、土着の精神というものである。なるほど、彼の作品には、鏡花の世界におけるように、幽霊そのものは出てこないけれども、幽霊にひとしい狂った人間は必ず出てくるのである。

つまり、狂人や白痴や偏執狂や、変態性欲者や乞食や犯罪者などといった、この日常的現実以外の現実生きる者、あるいは魔的なものに憑かれた人間ばかりが出てくるのだ。確固とした人間概念は、夢野の世界には存在せず、夢野の考える人間とは、いつも人間概念をはみ出すアモルフな存在なのである。

(『夢野久作全集』第一巻)

種村季弘

反近代主義や土着思想には相手どつていつかは倒すべき敵がある。失地回復。これは敵がなければ成り立たない勝負の世界を前提にしている。勝つてしまえばそこが行き止まり。ために、夢野久作のどこへも行き着きたがらず、舞台の上でのようにたえずくるくる変身し続けている人物たちに、どこへ行くのだと訊ねてみようか。彼らはおそらく異口同音に答えるだろう。勝ツノハ皆サンニオマカセシマス。私ハタダ逃ゲテイルノガ好キナノデス。

(『逃走のトボロジ』)

由良君美

夢野久作の世界——それは極めて豊饒な多面体の宇宙、童話から一種の本体論的思考を貫いてナンセンス詩にまで至る、手のつけられない多様の海である。つまり、『白髪小僧』や『オシャベリ姫』から『ドグラ・マグラ』を貫いて『猟奇歌』や、作品のいたるところに散りばめられたオノマトピア(擬音)のナンセンスに至る、振幅の広い多面体宇宙なのだ。

彼の作品が、大正末年から昭和初年におよぶ、いわゆる推理小説の風土に決して収まりきらず、強靱な思考の縦軸をつねに底に隠しもち、人間の正体の解きがたい謎にまで、たえず肉迫する思想詩の風貌をたたえていることが、なによりも、わたしを喜ばせる。

(『自然状態と脳髓地獄』)

外国文学者のはしくれとして敢えて保証させてもらおう、夢野はその傑作において、世界文学に伍する高さを備えている、と。

(『怨念とアイデンティティー』)



『自己虐殺の幻覚』及『自己の屍體幻視』と稱する變態心理は

特異中の特異例に屬す可きものなるを以て、その斯の如き



金井美恵子

夢野久作の小説は、次から次へ手あたりしだいに読み続けることを強いて、手もとにもう読むべきものがなくなってしまう時、ホツと深い溜息をもらさせるわけで、他にもむろんそうした類いの読書を強いる作家はいるのだが、最近、そうした形の読書を通して読んだ小説といえば、まず、夢野久作なのである。

久作の語り口の憑かれた悪夢のような熱狂的な調子に引きずり込まれながら、ひとつの短篇を読むとまた次の短篇を、といったふう読みつづけて行ってしまうのだが、その時、読者は、完全に久作の夢魔と熱狂に支配された夢の乱舞する世界にひたり込んでしまっているのだ。

(「乱舞する夢」)



島田雅彦

久作の目には当時の国際情勢も日本の国家主義者たちの主張も全て嘘臭く見えたであろう。国家主義者たちは列国の陰謀を騒ぎ立て、自らも陰謀を画策する。久作の逃げ場は虚構の世界しか残っていなかった。

『少女地獄』……これがぼくが最も愛する作品である。最初についた嘘を通すために新たな嘘をつき、さらにその嘘を隠すために別の嘘をつき、最後には嘘とともに心中する。日本の国家主義者たちの行く末を当時の久作は天才看護婦姫草ゆり子に仮託して予言した。

(「父よ あなたは嘘つきだった」)

松本俊夫

私が始めて夢野久作を知ったのは、大学を卒業して間もなく早川版の『ドグラ・マグラ』を古本で読んでからである。しかし正直なところ、その時はそのゴチャゴチャした文章が読みにくく、半分消化不良を起しながらやつの思いで読み終えたことを覚えている。それでもその異様な読後の印象がよほど気になっていたのだろう。私は六〇年代の終りに三一書房が「夢野久作全集」を出版しだすや、それらをたて続けに読んですっかり久作ファンになってしまったのである。私が好きだったのは『白髮小僧』『押絵の奇蹟』『瓶詰地獄』『あやかしの鼓』『死後の恋』『氷の涯』『少女地獄』『いなな、の、しけん』『犬神博士』『ドグラ・マグラ』などだが、何と言っても圧倒されたのは『ドグラ・マグラ』にほかならない。その時はもうあのゴチャゴチャした文体も逆にすごく面白く、私はまるでその巨大な渦に醜弄される思いで、頭をグラグラさせながら、この妄想的な迷宮世界がどこかウイーネの『カリガリ博士』とレネの『去年マリエンバードで』を掛けて二で割ったような不思議な印象を受けたものである。

(『ドグラ・マグラ』の迷宮装置)

桂米朝 三代目

御本人自身が、お喋りのうまい人であったのか、座談の妙手であったのか、私は何も知りませんが、夢野久作は文字による「はなし家」と言えるのではないかと思います。

(「はなし家夢野久作」)



に戀着する心理を指すものなれども、之をその本源に溯りて



● 第1巻～第5巻の小説は編年体をもって編集。
 ● 色字はちくま文庫版『夢野久作全集』未収録の作品。*は単行本初収録の作品。

第1巻【小説Ⅰ】1917—1931

ISBN978-4-336-06014-3

柱時計 或夜の夢 空地 二人の幽霊 日嬢 田園の正月 田園生活
 夜汽車の活劇 中学生 赤の意義 五法の金貨 最後の一絞め 雲煙録
 黒白ストーリー 侏儒 あやかしの鼓 ドタ福クタバレ 線路 夫人探索
 ゐなか、の、じけん 人の顔 月蝕 死後の恋 瓶詰地獄 涙のアリバイ
 押絵の奇蹟 微笑 支那米の袋 鉄鎚 空を飛ぶパラソル 卵 復讐
 童貞 奥様探偵術 悪魔以上

第2巻【小説Ⅱ】1931—1933

ISBN978-4-336-06015-0

一足お先きに 靈感！ ココナツトの実 犬神博士 自白心理
 怪夢 斜坑 焦点を合はせる 狂人は笑ふ
 幽霊と推進機 ビルヂング キチガヒ地獄 老巡查 意外な夢遊探偵
 けむりを吐かぬ煙突



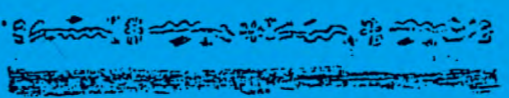
『定本夢野久作全集』 全巻内容



青柳喜兵衛画「犬神博士」



青柳喜兵衛画「犬神博士」



内藤黄画「怪夢」



青柳喜兵衛画「超人鬚野博士」



青柳喜兵衛画「犬神博士」



画家不詳「人の顔」



内藤黄画「一足お先に」



吉田貞三郎画「人間腸詰」

第3巻【小説Ⅲ】1933—1934

ISBN978-4-336-06016-7

暗黒公使 縊死体 氷の涯 冗談に殺す 爆弾太平記
白菊 斬られ度さに 名君忠之 山羊鬚編集長 難船小僧
木魂 衝突心理 無系統虎列刺

第4巻【小説Ⅳ】1934—1935

ISBN978-4-336-06017-4

近眼芸妓と迷宮事件 白くれなる 骸骨の黒穂 笑ふ啞女
ドグラ・マグラ

第5巻【小説Ⅴ】1935—1936

ISBN978-4-336-06018-1

超人鬚野博士 S岬西洋婦人絞殺事件 二重心臓 眼を開く 巡査辞職
髪切虫 人間レコード 眉唾「黄金の滝」継子 人間腸詰 悪魔祈禱書
少女地獄 名娼満月 戦場 女坑主 冥土行進曲 芝居狂冒険 オンチ

第6巻【童話】

ISBN978-4-336-06019-8

正夢 天狗退治 石の地蔵様 謎の王宮 金銀の衣装 猿小僧
不幸の神像 龍宮の蓮の花 若いヘクレスの人形 金剛石 罪深い人

美しい子供 当たつた予言 白髪小僧 やまぼん 犬の王様
オオサワキ 青水仙赤水仙 どろぼうねこ 白椿 われぬ卵 章魚の足
黒い頭 若返り薬 クチマネ 虫の生命 桃太郎のお母さん
銀のうた銀の踊り 一銭 馬と鼠 蜜柑とバナナ 弱虫太郎 凍えた蛇
雪の塔 キ、リツ、リ オモチヤの探偵 三人兵士 筆人 ドン
紅梅の蕾 水飲み巡礼 お菓子の大舞踏会 馬鹿な百姓 トンボ玉
茶目九郎 凧と雀 お池の水 松と桜 鷺鳥の群 虫と霜 猿
犬と人形 豚と猪 蛇と蛙 ペンとインキ 蚤と蚊 懐中時計
人形と狼 森の神 約束 お金とピストル 鷹とひらめ 医者と病人
二つの靴 狸と与太郎 雛つ子 驢馬の紛失 二人りの男と荷車曳き
先生の眼玉に 梅のほひ 鉛筆のシン 電信柱と黒雲 おもちや二つ
何だらう〜 健ちゃんの希望 がちやく〜 ドングリコッコ
雨ふり坊主 ツク〜法師 ピョン太郎 いも子 あぶのおれい
奇妙な遠眼鏡 オシヤベリ姫 三人姉妹 寸平一代記 人が喰べ度い
豚吉とヒヨロ子 雪子さんの泥棒よけ ルルとミニミ ほか

第7巻【評論・随筆】

ISBN978-4-336-06020-4

I 謡曲黒白談 新聞をよみ乍ら 顔 十月一日の夜 訪問奇譚
日本の青年諸君に望む 外人の見たる日本及日本青年 繫驢楯
*物価騰貴に就て 芭蕉扇 三等哲学 両重関
*能楽から見たる近代芸術と近代芸術としての能楽の価値
喜多實氏の「熊坂」と「海女」 宝生流素謡会 湯気の中で



六平太と万三郎 朝鮮飛歩記 鼻の表現 三面鋒 宝生流演能会を観る
 友枝氏の「望月」と梅津氏の「桜川」 琵琶座頭 極端な個人主義
 *震災後の能楽界 梅若派演能評 田舎謡と東京謡 船なしの鬼界島
 喜多会催能評 能の女之美 頭が象徴する文化 博多ツ児の定義
 片仮名崇拜 福岡の狂言界 金春流演能
 梅若派演能評 六平太先生所見 ざんげの塔
 チャンバラ 「生活」+「戦争」+「競技」÷0＝能 みのる君の悪口
 遅詩ながら ナンセンス 江戸川乱歩氏に対する私の感想
 *能のみかた 塵 武術と能楽 能とは何か 涙香、ポー、それから
 非現実的な安宅と現実的な石橋 喜多流院外団
 怪青年モセイ 不景気 三輪と隅田川 遠慮なく笑って下さい
 本格小説の常道 實さんの精神分析 直木三十五氏へ
 塵 挿絵と闘つた話 襟元を見る 名人とは…… 乞食の叫び
 堅実無比 ひでり 路傍の木乃伊 天狗鉢合はせ
 書けない探偵小説 我もし我なりせば 探偵小説の正体 呑仙士
 スランプ 日本人と能楽 お茶の湯満腹談
 道成寺不見記 能界万華鏡 加藤介春を怨む やつつけられる
 探偵小説の真使命 ビール会社征伐
 父杉山茂丸を語る 父・杉山茂丸 甲賀三郎氏に答ふ
 「能楽」と歌舞伎の行方 青柳君の芸術
 玄洋社からどんな人物が出たか 古き日記より 私の好きな読みもの
 能楽を愛すればこそ 自己を公有せよ 創作人物の名前について
 探偵小説漫想 机上空論 モット真剣に 恐ろしい東京
 *親馬鹿ちゃんりん ほか

第8巻【短歌・ルポ・伝記座談会・雑録・異稿・補遺・書誌・年譜】

ISBN978-4-336-06021-1

短歌 歌会例会記事 狐奇歌 詩 川柳 歌謡 時事漫画 阿蘇紀行
 〔備後丸通信(第一信)〕 〔備後丸通信(第二信)〕 〔備後丸通信(第三信)〕
 東京震災スケッチ 大東京の残骸に漂ふ色と匂いと気分 東京の焼け跡
 変つた銀座の姿―焼跡細見記 残骸の東京―焼跡細見記
 変つた東京の姿―焼跡細見記 復興の東京スケッチ
 震災一年後の東京 一年後の東京 新東京スケッチ
 街頭から見た新東京の裏面 東京人の墮落時代 梅津只圓翁伝
 近世快人伝 座談会 翡翠を読んで 即身成仏 おもひちがひ
 所感(「あやかしの鼓」当選) 印象に残れる作品 今年の探偵小説
 江戸川乱歩の「陰獣」寸感 タダ一つ神もし許し賜は……
 福岡市の郊外 見かけによらない ぶろふいるに寄する言葉
 探偵小説問答 大衆文芸に対する諸家の意見 本年度の傑作は何だ？
 二科展を見て 題をつける時・書き出しに・結末に・困つた話
 三四年問答録 文学志望者に与ふる一家言 僕の推薦する新人
 「金色藻」読後感 少年時代に愛読した小説とその感想 4月馬鹿凸凹集
 私の好きな男、私の好きな女 「九州文化」に対する諸家の批判と希望
 頭山満先生 探偵文壇への希望 良心 第一義 薄間抜けの称
 *時事漫画 大手柄芝居狂 探偵奇談 首縊りの紛失 発明家
 *蠟人形／呉井嬢次 傀儡師 能とは何ぞや ほか
 年譜

※編集内容 収録作品については一部変更の可能性あります。あらかじめご了承ください。
 【資料提供のお願い】小社では現在、夢野久作が雑誌『黒白』に掲載した「発明家」探偵奇談「首縊りの紛失」
 「蠟人形」「傀儡師」を探しております。お心あたりのある方のお知らせをお待ちいたします。



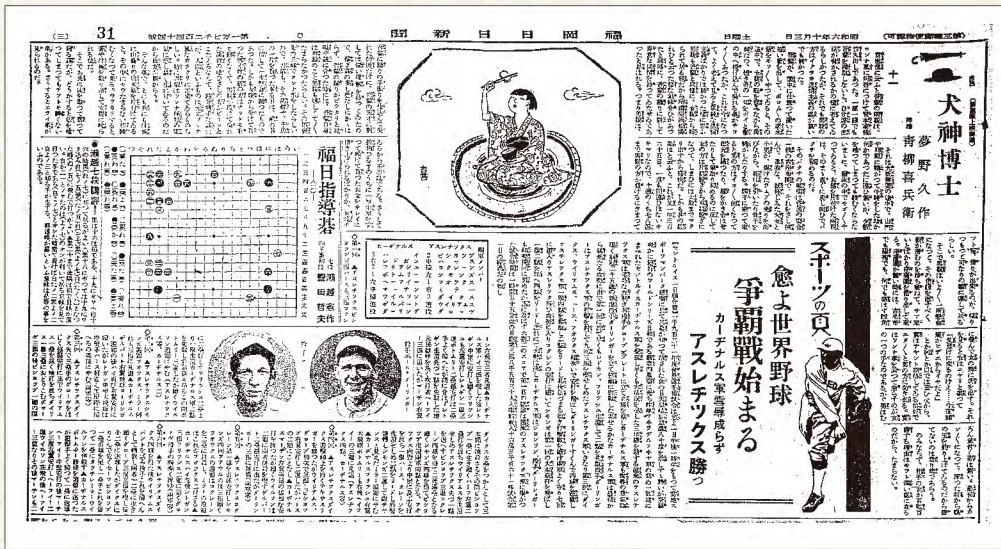
p2、3、4、5、11、12、14：夢野久作画
 p7：「ドグラ・マグラ」フランス版、2003年。訳者はバトリック・オノレ。
 p8：「少女地獄」スペイン版、ダニエル・アギラール訳、2014年。表紙のイラストは山本タカト画。
 p9：「ドグラ・マグラ」台湾版、林敏生訳、2013年。
 この〈偵探小説選〉のシリーズで、他にも「久作集」が3冊刊行されている。
 p14：「ドグラ・マグラ」台湾版、林敏生訳、2014年。「脳髓地獄」のタイトル。
 p15(右)：「ドグラ・マグラ」中国版、林敏生訳、2009年。宮崎駿の言葉が帯に印刷されている。
 p15(左)：「ドグラ・マグラ」台湾版、詹慕如訳、2014年。「日本四大推理奇書之首!」と帯にある。

全巻購読者特典案内



「新聞型冊子・挿絵つき『犬神博士』」

全巻購読の方にもれなく進呈



【内容】

夢野久作が昭和6年9月23日から昭和7年1月26日まで『福岡日日新聞』に連載した傑作小説『犬神博士』を、掲載時の形のまま収録した新聞型冊子。夢野久作に「挿絵の力に押され気味で筆をすゝめるに苦吟する」と言われた、博多出身の挿絵画家・青柳喜兵衛の100点を越える挿絵とともに、小説掲載時の雰囲気味わいながら『犬神博士』を楽しめます。

『定本 夢野久作全集』(全8巻)を購読された方々に、もれなく「新聞型冊子・挿絵つき『犬神博士』」を無料で差し上げます。下記の方法でご請求下さい。ご請求後、2か月以内にお届けします。

【請求方法】

『定本 夢野久作全集』の各巻の帯に刷り込まれている応募券を切り取り、計8枚を郵便はがきに貼って「国書刊行会 営業部 夢野久作係」へお送り下さい。請求締切は最終回配本の6か月後とします。



死後の恋

一

ハハハハハ。イヤ……失礼しました。嘸かしビツクリなすつたでせう。ハハア。乞食かと思ひになつた……アハハハハハ。イヤ大笑ひです。

あなたは近頃、この浦塩の町で評判になつてゐる、風来坊のキチガヒ紳士が、私だといふ事をチツトモ御存じなかつたのですね。ハハア。ナルホド。それぢやさうお思ひになるのも無理はありません。泥棒市に売れ残つてゐた旧式のポロ礼服を着てゐる男が、貴下のやうな立派な日本の軍人さんをスエツランスカヤ(浦塩の銀座通り)のまん中で捕まへて、こんなレストランへ引つぱり込んで、ダシヌケに、「私の運命を決定して下さい。」

などと、お願ひするのですからね。キチガヒだと思はれても仕方がありませんね。ハハハハ……しかし私が乞食やキチ

ガヒで無いことはおわかりになるでせう。ネエ。おわかりになるでせう。酔つ払ひで無いことも……さやう。お笑ひになると困りますが、私はかう見えても生え抜きのモスコイ育ちで、旧露西亜の貴族の血を享けてゐる人間なのです。さうして現在では、ロマノフ王家の末路に關する「死後の恋」といふ極めて不可思議な神秘作用に自分の運命を押し居りますので……実は只今からそのお話をきいて頂いて、あなたの御判断を願はうと思つてゐるのですが……勿論それは極めて真剣な、且つ歴史的に重大なお話なのですが……

……あ……御承知下さる……有り難う。ホントウに感謝します。ところでウオツカを一杯いかゞですか……ではウキスキーは……コニヤツクも……皆お嫌ひ……日本の兵士はナゼそんなに、お酒を召し上らないのでせう……では紅茶、乾菓子。野菜……アツ。此店には自慢の腸詰がありますよ。召し上りますか……ハラシヨ……

オイ……別嬪さん。一寸来てくれ。註文があるんだ。……私は失礼してお酒をいたゞきます。……イヤ……全く、こんな贅沢な真似が出来るのも、日本軍が居て秩序を保つて下さるお蔭です。室が小さいのでベーチカがよく利きますね……サ……帽子をお取り下さい。どうか御ゆっくり願ひます。

実を申しますと私はツイ一週間ばかり前に、あの日本軍の兵站部の門前で、あなたをお見かけた時から、ゼヒトモ一